

育成を目指す資質・能力

仮想マニフェストの作成および模擬選挙の体験を通して、選挙への関心を高め、選挙制度の理解を深めることができる。

ICT活用のポイント

- ・生徒が候補者（市長）となって考えたマニフェストについて、プレゼン動画を事前に作成し、本時で視聴する。
- ・ICT端末でクラス全員が仮想投票を行い、結果を全体に示し、投票理由を聞く際に活用する。

事例の概要

本時の学習の確認

マニフェスト動画の視聴

端末を使った仮投票および
結果の表示

投票した理由を意見交換

最終投票

① マニフェスト動画の視聴

<事前撮影>

- ・グループで考えたマニフェストを紹介する方法として、事前にプレゼンを作成する。
- ・プレゼンの時間を設定した上で生徒たちはICT端末を使用し、何度も撮影のやり直しをしながら発表プレゼンを作成する。

<動画の視聴>

- ・クラス全員が大型テレビで視聴するが、見にくい場合は手元の端末で見ることができる。

② 端末を使った仮投票および結果の表示

- ・動画の視聴後、アンケート機能を使い、生徒各自が投票する。
- ・全員の投票が終わった段階で、結果を大型テレビに示す。

※数人になぜその候補者に仮投票したのか理由を聞き、学級で意見交換する。最終投票は、選挙管理委員会から借りた本物の投票箱で実際と同じ形式で行う。

【授業の導入】



【マニフェスト動画視聴後 本投票の準備】



ICT活用の工夫（○）や留意事項（□）

- マニフェストを作成し、動画で撮影する活動は授業外の時間で行った。生徒たちはそれぞれに工夫を凝らし、手書きの資料を見せたり、キャッチフレーズを動画に挿入したりして取り組んだ。何度も撮影のやり直しができるので、納得のいくものを発表していた。
- 仮投票する際には、政策の内容で選択していくことが重要であるため、十分な念押しが必要である。
- 本投票を行う前に他の生徒が政策のどのような点を評価しているのかを話し合うため、I C T 端末を使用し、仮投票を行った。挙手では多数の生徒に流されがちな生徒も、自分の考えを意思表示することができ、集計に時間もかからずその後の話し合いの時間を確保できた。
- 本投票をする前の話し合いが重要。政策を多面的・多角的に評価するため、既習事項である「効率と公正」などの視点で評価したことをクラス全体で共有するようにした上で、生徒は最終的な価値判断を行う。
- インターネット投票を行っている国の選挙に触れることで、投票率や投票方法等の選挙の課題に関連付けて、発展的な学習を行うことも考えられる。

【活用したソフトや機能】 動画撮影、動画編集、ファイル共有、アンケート